

羅臼町再生可能エネルギー導入目標計画

【概要版】



2023年2月

はじめに

背景

- 羅臼町では、地球温暖化防止のために、これまで様々な取り組みを行ってきた。
- 我が国で目標として掲げた「2050年カーボンニュートラル」を実現するためには、**地域全体で更なる取り組みを進めていく必要がある**。
- 上記を受け、羅臼町では、2021年に「ゼロカーボンシティ宣言」を宣言、**2050年までにCO2の排出量実質ゼロを目指すものとした**。

目的

- 羅臼町の**CO2排出量の現状や課題を把握**する。
- 地域における再生可能エネルギー導入ポテンシャルや将来のエネルギー消費などを踏まえた**導入目標を策定**する。
- 目標を実現するための**具体的な施策などを検討**する。

第1章 計画策定の基本的事項

計画策定の意義

- 羅臼町が持ち得る資源を最大限に活用し、再生可能エネルギーの導入を通して地域の課題解決に寄与すること、地域の魅力を更に向上させていくことを目的とし策定した。

計画の位置づけ

- 地球温暖化対策は、分野を横断した総合的な長期戦略となること、かつそれ自体が地域の成長戦略となり地域の抱える様々な地域課題解決・地域経済循環・地方創生への寄与を目指すものであるため、他分野における行政計画と連携を取りながら施策の検討や策定を行うことが重要となる。

計画期間と目標

- 2013年度を基準年度、2030年度を中間目標年度、2050年を長期目標年度とし、目標値の設定を行った。

本計画における計画期間と目標

項目	基準年度	中間目標年度	長期目標年度
年度	2013年	2030年	2050年
CO ₂ 削減率	-	68%削減の達成	ゼロカーボン 107%削減の達成
CO ₂ 実質排出量(①-②)	-	39,900t-CO ₂	-8,600t-CO ₂
①CO ₂ 排出量	125,100t-CO ₂	82,000t-CO ₂	58,000t-CO ₂
②CO ₂ 削減量	-	42,100t-CO ₂	66,600t-CO ₂
再生可能エネルギー導入量	-	5,488MWh エネルギー消費量の約13% 太陽光建物系発電量:1,440MWh 太陽光土地系発電量:2,646MWh 中小水力発電量 : 0MWh 地熱発電量 : 1,402MWh 計:5,488MWh	26,319MWh エネルギー消費量の約80% 太陽光建物系発電量 : 2,400MWh 太陽光土地系発電量 : 7,275MWh 中小水力発電量 : 2,628MWh 地熱発電量 : 14,016MWh 計:26,319MWh

第2章 地域の現状と課題

- 基礎情報の分析に加え、事業者ヒアリング調査を実施した上で、羅臼町の主な地域課題を抽出した。

ヒアリング調査を通じた地域分析結果

漁業の町として、水産資源を守り、活用する必要がある

人口の減少や高齢化が進み、町内における若年層や女性の雇用機会が少ない

町内企業の経営者の高齢化・後継者不足等による商工の衰退

地下資源（温泉水・熱）の安定的な維持と活用が求められる

豊富な観光資源があるものの、駐車場数といった観光拠点施設の機能が不十分

地域の交通は自家用車に依存しており、高齢者を中心に移動手段の確保が課題

世界自然遺産である知床国立公園などの自然資源・景観を損なわない計画が必要

地域課題

漁業の活性化

水産資源の維持・安定

人口減少・高齢化

雇用の促進・雇用機会の創出

町内商工の振興

温泉水・熱の維持・活用

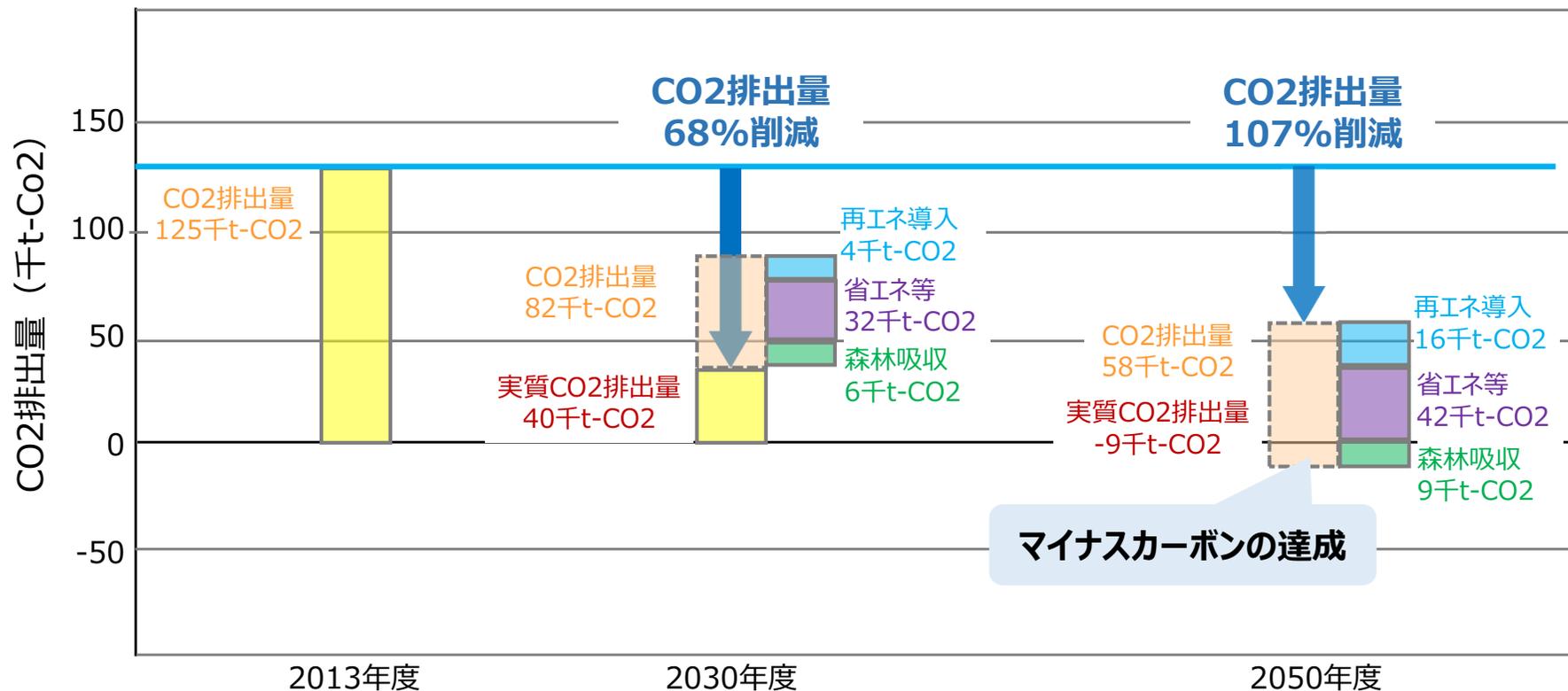
観光拠点施設の機能強化

域内交通の不便さ

自然・景観の保全

第3章 温室効果ガス排出量の現状・将来推計

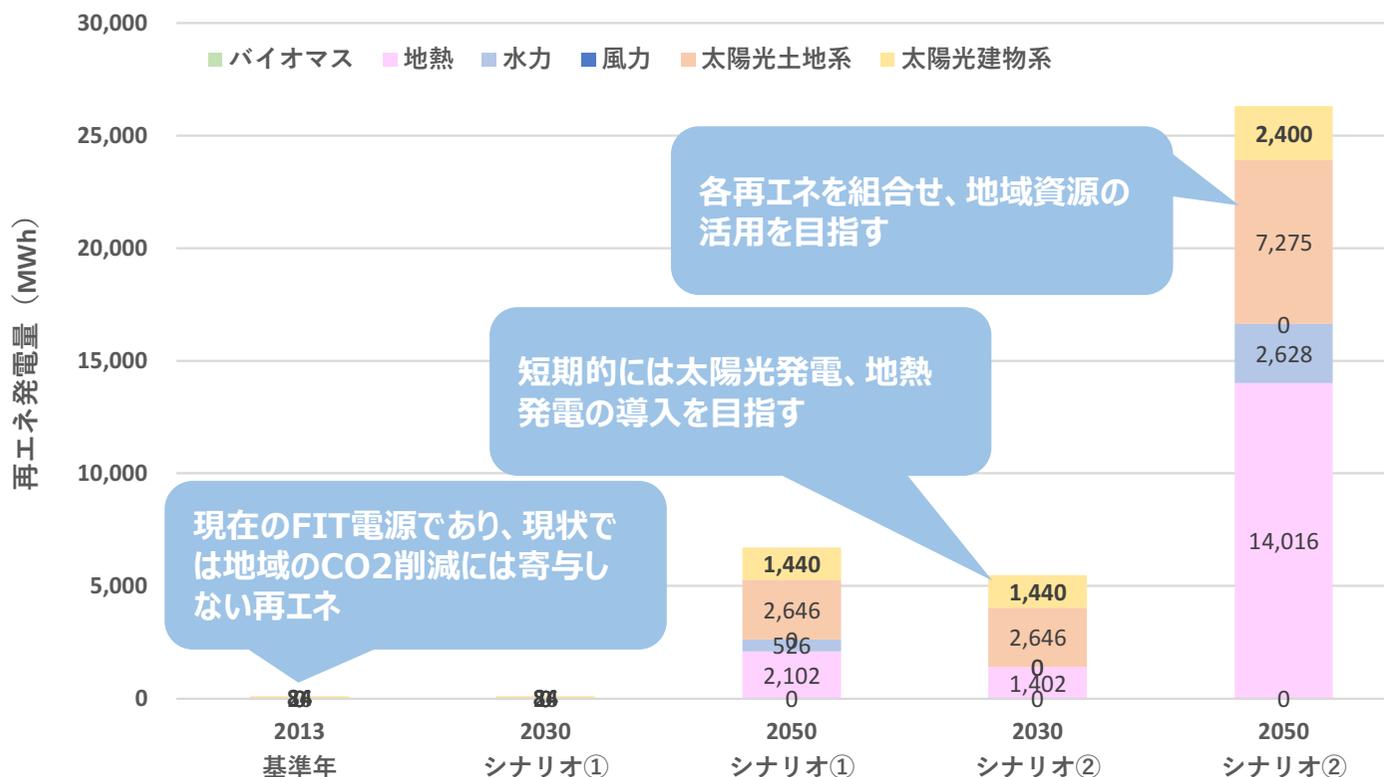
- 羅臼町のCO2排出量の現状を把握し、様々な脱炭素対策を行った場合の将来推計を行った。
- 羅臼町は、**2030年時点で68%減、2050年時点で107%減（マイナスカーボン）**を目指す。



第4章 再生可能エネルギーの導入目標

- CO2排出量の削減目標に応じた再生可能エネルギーの導入目標（地域再エネ利用率）を検討した。
- 地域の再生可能エネルギーの導入ポテンシャル、導入可能性も考慮し、短～長期的に各種再エネを組み合わせた導入目標とし、**地域再エネ利用率は2030年に約13%、2050年に80%**とした。

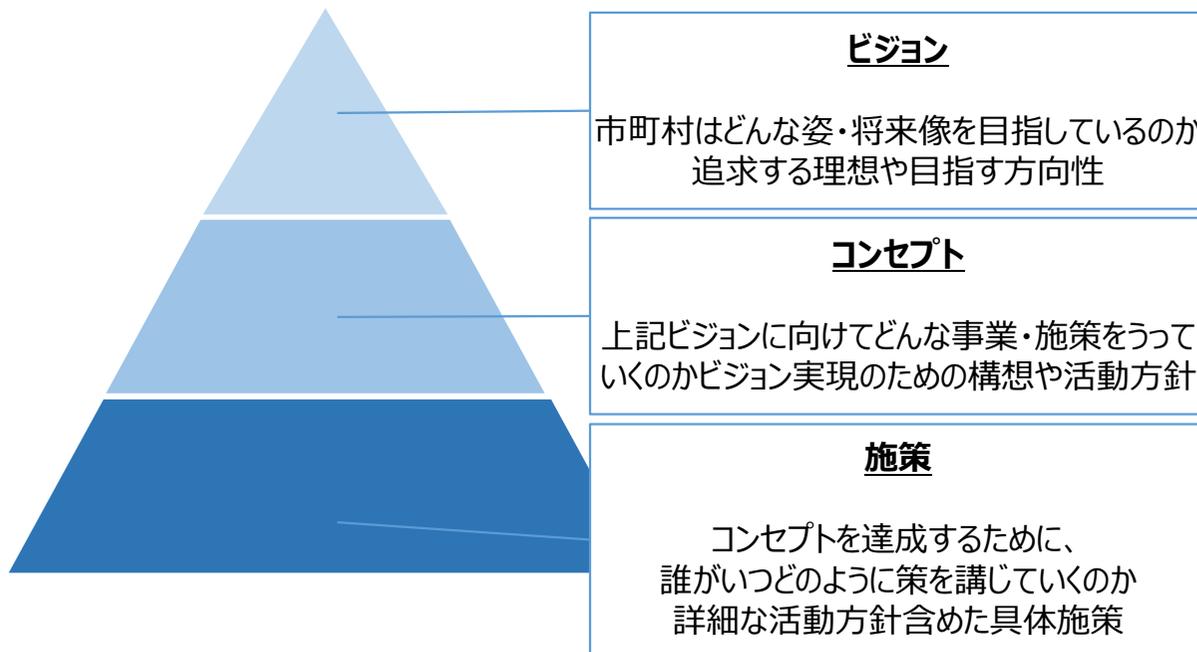
	2013年度	2030年度	2050年
エネルギー消費量	27,923 MWh	41,096 MWh	32,788 MWh
再エネ発電量	110 MWh	5,488 MWh	26,319 MWh
地域再エネ利用率	0 %	13 %	80 %



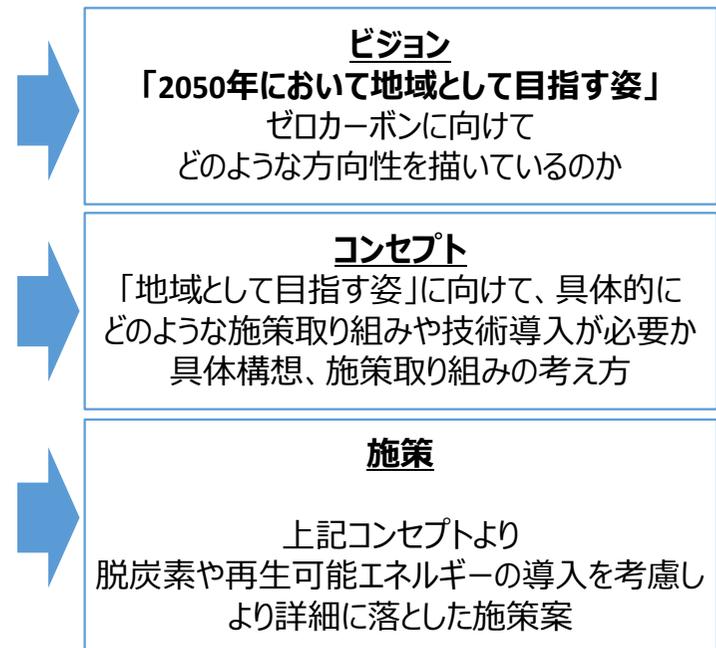
第5章 ゼロカーボン推進のための将来ビジョン

- 再生可能エネルギーを導入するに当たっては、脱炭素化のための手段としてだけでなく、地域住民の生活の質向上や産業の活性化等、羅臼町の魅力をさらに高めるためのきっかけになるため、**目指すべき具体的な将来ビジョン**を描くことが重要である。
- 本計画では、**ビジョン、コンセプト、施策**の構成を以下の通りとした。

一般的な考え方

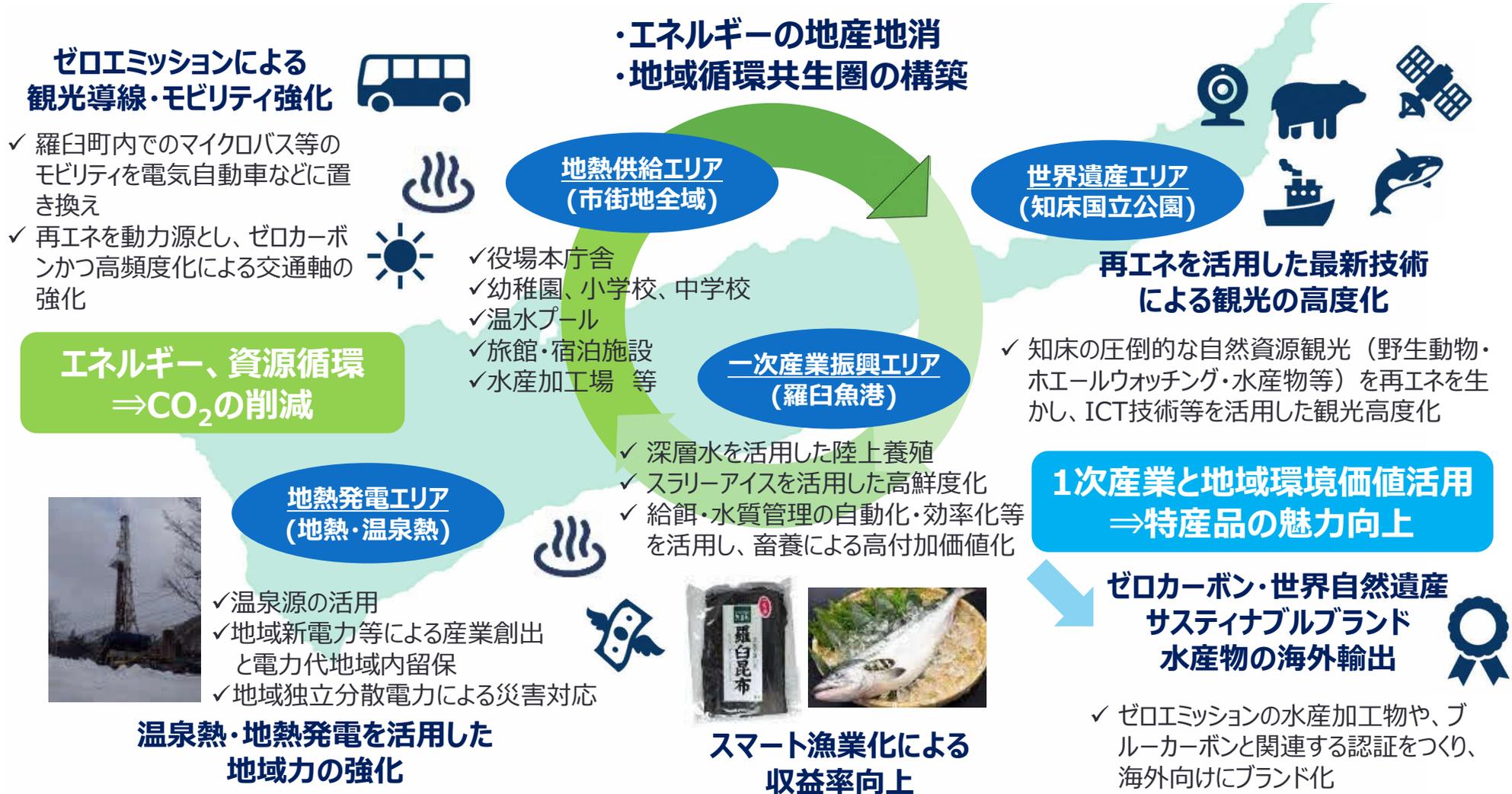


本事業における考え方



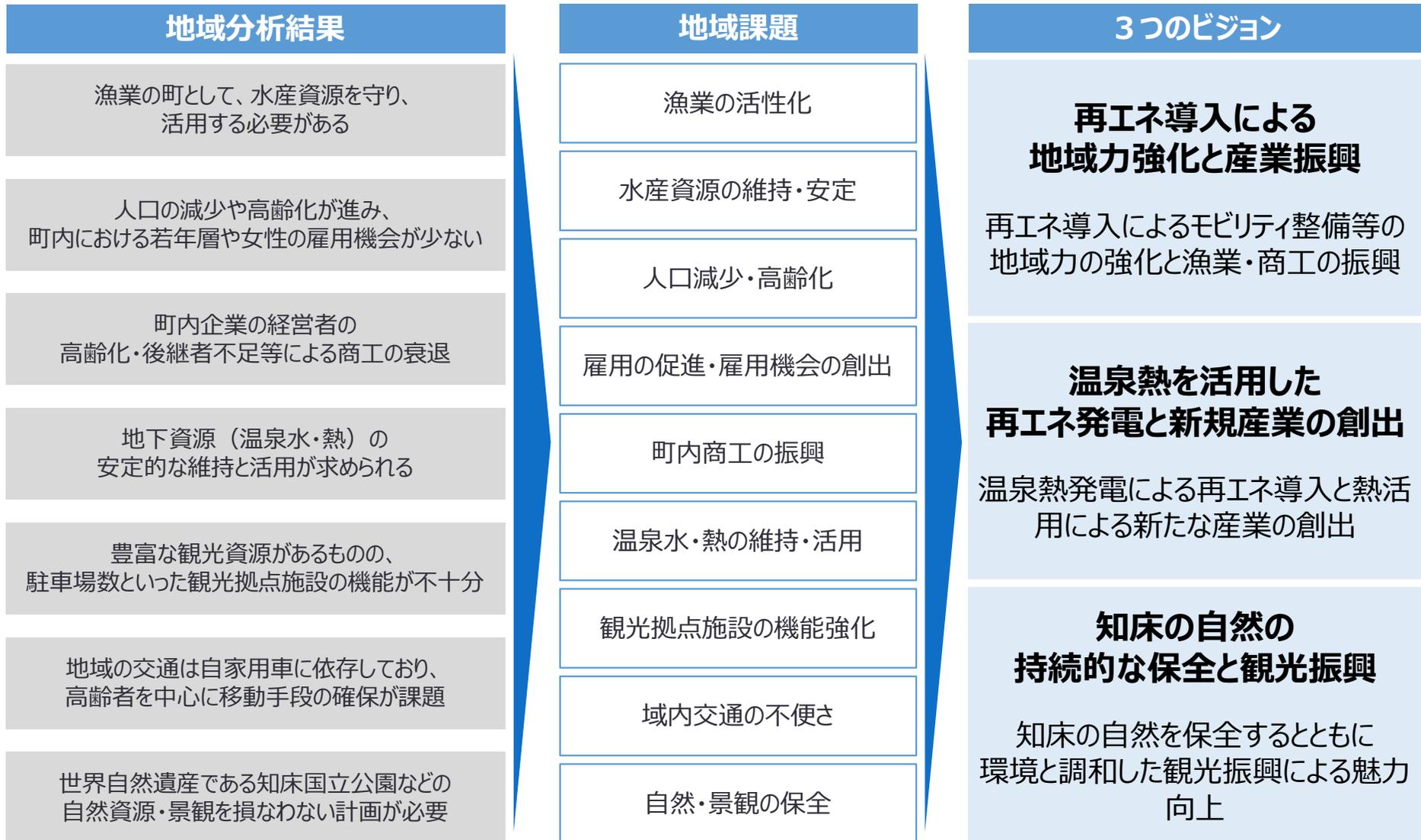
第5章 ゼロカーボン推進のための将来ビジョン

羅臼町の将来ビジョン：豊かな自然と共生し、活気に満ちたゼロカーボン地域



第5章 ゼロカーボン推進のための将来ビジョン

- 地域課題を解決するためのより具体的な将来ビジョンを3点定めた。



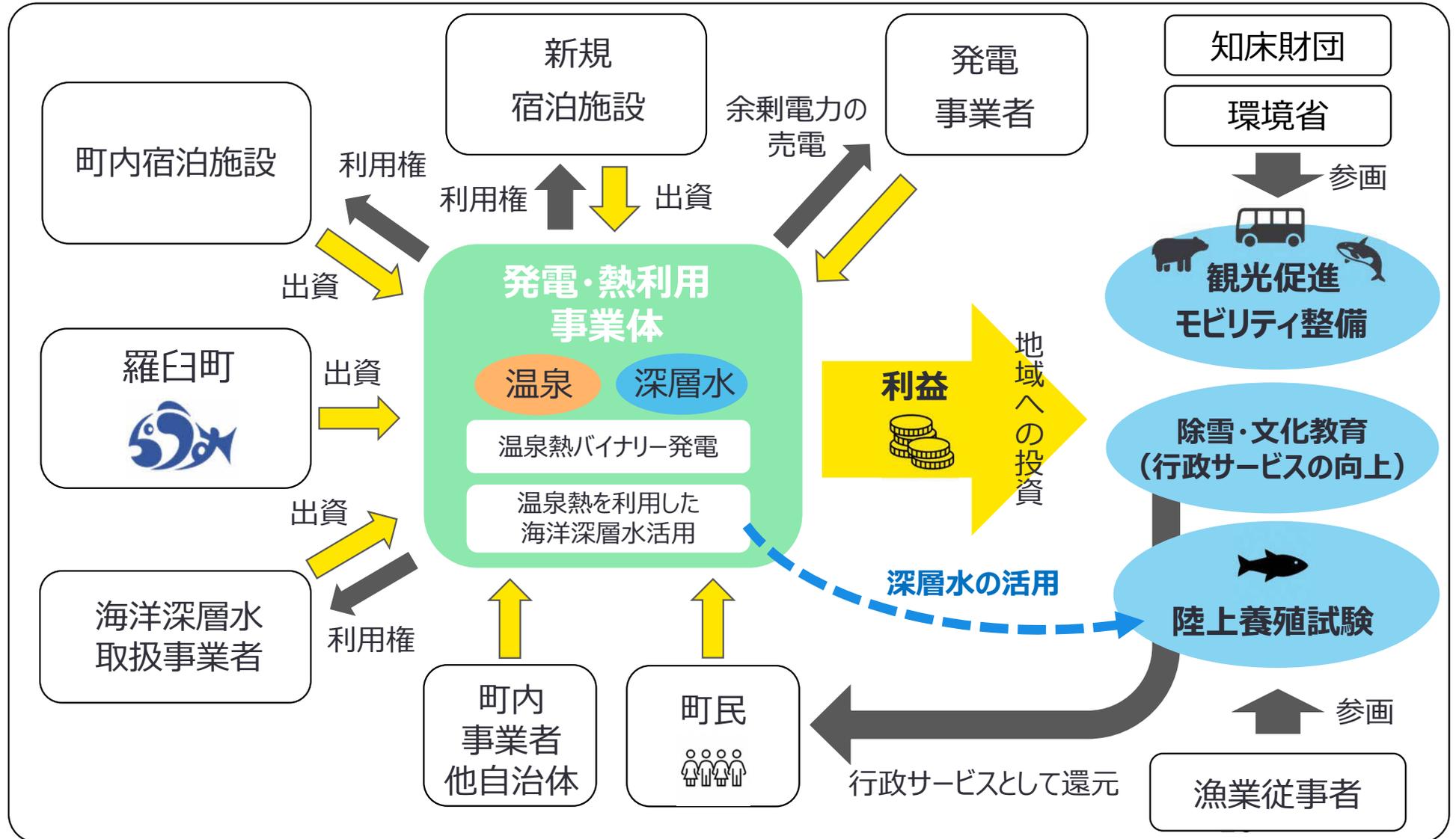
第5章 ゼロカーボン推進のための将来ビジョン

■ 目指すべき将来ビジョンに紐づく形で、複数のコンセプト及び具体的な施策を策定した。

ビジョン案	コンセプト案	施策案
再エネ導入による 地域力強化と産業振興	再エネの導入・ 省エネの推進	太陽光発電の導入
	漁業のスマート化	温泉バイナリー発電の導入
	地域交通の利便性 向上	小水力発電の導入
	海洋深層水の活用	庁舎・公共施設のZEB化
温泉熱を活用した 再エネ発電と新規産業の創出	サステナブルブランド化	廃棄物の削減
	温泉熱の有効活用	再エネに関する勉強会の実施
	雇用機会の創出	漁業施設等での再エネ電力活用
	観光機能の強化	ICT活用による省人化・高付加価値化
知床の自然の 持続的な保全と観光振興	自然環境との共生	EV船の導入
	ブルーカーボンの創出	EV・FCVの導入
		EVコミュニティバスの導入・運行
		ゼロエミッションの水産加工品の生産・販売
		温泉熱を活用した陸上循環養殖
		再エネ導入観光用モビリティの導入
		自然環境に配慮した脱炭素社会の実現、環境教育の推進
		森林吸収
		藻場の回復・ブルーカーボン認証

第5章 ゼロカーボン推進のための将来ビジョン

羅臼町の将来像



第6章 ゼロカーボン推進のための施策

- 豊かな自然と共生し、活気に満ちたゼロカーボン地域の実現を目的とした施策と具体的な取り組み例を考案した。

施策一覧				
NO.	羅臼町ビジョン	羅臼町コンセプト	施策	具体的な取り組み例
1	再エネ導入による 地域力強化と産業振興	再エネの導入・ 省エネの推進	太陽光発電の導入	<ul style="list-style-type: none"> ・国、道の補助事業の獲得 ・導入事前調査 ・設備導入、配送電方法の検討
2			温泉バイナリー発電の導入	
3			小水力発電の導入	
4			庁舎・公共施設のZEB化	<ul style="list-style-type: none"> ・新築予定の公共施設のZEB化検討 ・庁舎や既存公共施設のZEB化改修検討
5			廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物の分別 ・リサイクル業者との連携
6			再エネに関する勉強会の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会等コンテンツの作成 ・勉強会の実施・運営
7		漁業のスマート化	漁業施設等での再エネ電力活用	<ul style="list-style-type: none"> ・国、道の補助事業の獲得 ・再エネ設備導入 ・EV船、EVトラックなどの導入
8			ICT活用による省人化・高付加価値化	<ul style="list-style-type: none"> ・国、道の補助事業の獲得 ・海況情報取得機器の設置
9			EV船の導入	<ul style="list-style-type: none"> ・国、道の補助事業の獲得 ・再エネ設備導入 ・EV船用充電設備の導入
10		地域交通の利便性向上	EV・FCVの導入	<ul style="list-style-type: none"> ・公用車のEV化 ・充電インフラの設置 ・地域住民・事業者へのEV・FCV普及促進
11			EVコミュニティバスの導入・運行	<ul style="list-style-type: none"> ・国、道の補助事業の獲得 ・充電スタンド等の設備整備 ・EVコミュニティバスの導入・運行
12		サステナブルブランド化	ゼロエミッションの水産加工品の生産・販売	<ul style="list-style-type: none"> ・国、道の補助事業の獲得 ・水産加工場への再エネ設備の導入

第6章 ゼロカーボン推進のための施策

施策一覧				
NO.	羅臼町ビジョン	羅臼町コンセプト	施策	具体的な取り組み例
13	温泉熱を活用した 再エネ発電と新規産業の創出	温泉熱の有効活用	温泉熱を活用した陸上循環養殖	<ul style="list-style-type: none"> ・国、道の補助事業の獲得 ・温泉導水管の設置 ・陸上循環養殖施設の設置 ・再エネ養殖設備の導入
14		海洋深層水の活用		
15		雇用機会の創出		
16	知床の自然の 持続的な保全と観光振興	観光機能の強化	再エネ導入観光用モビリティの導入	<ul style="list-style-type: none"> ・国、道の補助事業の獲得 ・観光拠点施設への再エネ発電設備、充電スタンドの導入 ・観光地の受入体制整備 ・観光用モビリティの導入・運行
17		自然環境との共生	自然環境に配慮した脱炭素社会の実現、 環境教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・国立公園の集団施設地区及び公園隣接地における脱炭素の取り組み ・ルサ地区における森林育成や河川改良による自然復元 ・サステナブルツーリズムの推進と自然環境に配慮した知床半島の利用のあり方の検討 ・情報発信と環境教育の普及促進 ・関連取り組みに基づくゼロカーボンパーク登録
18			森林吸収	<ul style="list-style-type: none"> ・適正な維持管理の推進 ・林業経営支援
19		ブルーカーボンの創出	藻場の回復・ブルーカーボン認証	<ul style="list-style-type: none"> ・適正な維持管理の推進 ・水産業経営支援

第7章 計画の推進及び進捗管理

- 次年度以降に、町民等組織を立上げ、施策の実証・実装に向けた協議を開始する。
- 当協議にて、実現可能性が高いと判断された施策や、協議会参加者の参画意欲が高い施策に関しては、個別にWGを立上げ、実証・実装に向けた具体の検討を進めることとする。

推進体制イメージ(案)

実現可能性が高いと判断された施策

